



# 北海道 造形教育 連盟報

No.143 2016.12.1発行

発行 北海道造形教育連盟

会長 三井 哲 (札幌市立北白石小学校長)

事務局長 阿部 時彦 (札幌市立真駒内鷹中学校長)

事務局 札幌市立真駒内鷹中学校

〒005-0018

札幌市南区真駒内曙町2丁目1番2号

TEL(011)582-1642・FAX(011)582-9509

北造連HP <http://hokuzou.kir.jp>



## 第66回全道造形教育研究大会札幌大会を終えて

第66回全道造形教育研究大会札幌大会実行委員長

札幌市造形教育連盟会長 **伊藤 正敏**

(札幌市立清田小学校長)

「“すぎ”が輝く造形活動」を大会テーマに、第66回全道造形教育研究大会札幌大会が、全道各地より多くの会員の皆様の参加を得て、盛会に開催することができましたことに心から感謝申し上げます。

それぞれの授業において、「シコウと響き合いが生まれる授業を展開すれば、子どもたちの“すぎ”が輝く姿になるだろう」との教師の主張のもと、「子ども一人一人が感性を働かせて自分にとっての“すぎ”を表したり、感じたりする姿」を目指しました。それぞれの分科会におきましては、21世紀を生きる子どもたちに求められる資質や能力の育成に向けた授業づくりや、今日的な教育課題の解決に向けた指導の構築のための教師の役割と具体的な方策等について重点的に研究討議が行われました。

そして、東良 雅人(ひがしら まさひと)様のご講演から、学校教育をめぐる環境が複雑化・多様化し、様々な課題が山積している現状において、造形教育の未来について、教育課程づくりの視点から大変貴重なご示唆をいただきました。

さらに題材屋台村では、全道各地の皆様の情熱溢れる実践が紹介されました。これからの造形教育の発展に向け、全会員が情報と目標を共有し、課題解

決に向けて、一人一人のアイデアを生かしながら、創意工夫のある造形活動を協働体制で展開し、成果と改善点を検証していくことが重要です。その過程を通して、会員相互に連帯感が生まれ、信頼関係が築かれ、「チームワーク」が高まっていきます。「チームワーク」を大切にし、学級の児童生徒のことや指導方法などを語り合うことを通して、会員同士で多くのものを学び合う風土や、自分の困りや悩みについて、会員全員が共感と理解を示し、みんなでサポートしていく造形連盟の文化を創り上げていきたいものです。

終わりにりましたが、授業公開や分科会も円滑に運営がなされ、充実した内容となりましたのは、ひとえに会員皆様のご配慮のお陰によるものです。心から感謝いたします。また、本大会の開催にあたり、ご支援頂きました北海道造形教育連盟をはじめ、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、関係各位の皆様にご心から御礼申し上げます。そして、来年開催されます第67回全道造形教育研究大会釧路大会に引き継がれ、更なる大きな成果が得られますことを願い、大会終了のご挨拶とさせていただきます。



# 第66回全道造形教育研究大会 札幌大会

大会テーマ・研究主題 “すき” が輝く造形活動

## 札幌大会を振り返って

「“すき” が輝く造形活動」を研究主題として設定し、大会の授業づくりに協力させていただきました。実践と研究を通して子どもを見つめる中で、改めて子どもの豊かさに驚かされました。これからも北海道の子ども豊かな造形教育を目指して励んで参りたいと思います。そして、今大会に関わってご尽力いただいた皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました！

研究大会 研究部長 小川 健

## 幼稚園 年長/プレゼン・提言

### 子どものまなざしで～造形遊び・ごっこ遊び～

上田 克美 (札幌市立白楊幼稚園)

#### <目指す子どもの姿>

- 安心して自分の思いを表し、友達と一緒に遊ぶ楽しさや充実感を味わう子ども。



#### 参加者の声

中村 嘉宏 (札幌市立手稲鉄北小学校)

幼稚園での造形活動に取り組む子どもの様子を見させていただき、活動のねらいや環境の設定などを学ばせていただきました。小学校入学前までにどのような経験を重ねているのかを知ることによって、普段の授業に生かすことができ、とても有意義な学びの場を与えていただきありがとうございました。

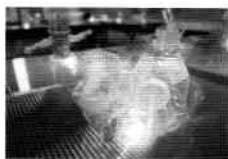
## 小学校 3年/A表現 (2)

### クリスタル星の仲間たち

三浦 真奈美 (札幌市立稲積小学校)

#### <教師の願い>

- 初めて出会う材料に心を動かし、工夫することで思い付いたことを立体に表す喜びを味わうことができるよう期待している。
- 自他の活動や作品に自分なりの価値観を感じられるよう期待している。



#### 参加者の声

石川 香菜子 (札幌市立白楊幼稚園)

子どもたちが生き生きしていたのが印象的でした。自分なりに表したり、工夫してつくろうとする姿がたくさん見られていました。材料やライトなどの道具も、子どもの意欲をかきたてるもので、参考になりました。子どもたちが落ち着いて、かつのびのびと学習に取り組んでいて、すばらしいと思いました。勉強させていただいてありがとうございました。

## 小学校 2年/A表現 (2)

### ようこそ！空の国へ！

篠原 貴 (札幌市立星置東小学校)

#### <教師の願い>

- 自分の雲から思いを広げ、自分の描きたいものを見付け出す姿や、友達の表現を見て自分のよさに気付く姿、透明なビニールにクレヨンで描く心地よさを感じながら自分の表現に夢中になる姿を期待している。



#### 参加者の声

若林 亘 (釧路市立鳥取西小学校)

窓に、クレヨンで描くという場の設定だけで、子どもたちにとって楽しい活動になっていたと感じました。授業者だけでなく、まわりの先生方が授業に深く関わってつくり上げた内容であったことが授業後の協議から伝わってきました。

さすがは札幌大会だけあって、先生方の層も研究内容も厚みを感じられ、有意義な大会でした。講演会もタイムリーな話題で良かったです。大会に向けた準備や運営、おつかれさまでした。

<教師の願い>

- 2年生から取り組んできた一連の鑑賞活動に、さらに親しみをもつことを期待している。
- 形や色の要素から感じる事が一人一人違い、そこに面白さを感じることを期待している。



小学校 3年/A表現（1）

つないでいくと…

<教師の願い>

- 材料からつないでいくことによって生まれる様々な形から活動の面白さを感じ、材料や場所を基に、様々なつなぎ方を思い付き、楽しさを共有する姿を期待している。



中学校 3年/A表現（1）

15歳の自我像～〇〇を見つめる瞳

<教師の願い>

- 「今の自分」のありのままの姿を見つめ、自分の中にある考えや思いを、豊かな形や色彩に置き換えて表現することを期待する。また、生徒が苦手とする、自由で柔軟な発想を育む機会としたい。
- 自分の主題を見つけ、それに迫ることで、よりよい表現を追求していく姿を期待している。



特別支援/ポスター発表

一人一人の窓から見る造形活動

- 絵を描くことが苦手な生徒が多いため「身の回りの物」を題材として自分で描きたいものを自分で選び自由に表現できることを期待している。
- 勢いよく線の表現ができる「割りばしペン」を使用することにより、伸びやかな表現・作品を期待している。



参加者の声

子どもたちが躊躇なく、伸び伸びと感じたことを言葉にする姿がとても印象的でした。普段から授業者の先生が一人一人の子どもの姿を大切に認めている成果なのでしょうか。

「アートカード」（＝「ココロカード」）を自分で作り、それを他の鑑賞教育に活用するという発想も素晴らしいと思います。

授業者・運営者のみなさん、本当にありがとうございました。

参加者の声

子どもたちが広い空間で生き生きとつなげる活動をしていてすてきな図工の時間だと思いました。道具がシンプルだったので、子どもの発想がどんどん広がっていき、常に思考しながら活動できていたと思います。また、子どもたちで、自然と協力し合っている姿がすばらしかったです。お互いを認め合い、支えるクラスなんだと思いました。私も今回見させていただいた図工の授業を目指して、学級経営にもつなげていきたいです。

参加者の声

プロセスシートにどの子もぎっしりと記入していて、具体的にイメージできている点がすばらしかったです。交流場面でも自分のことばで作品を語る姿が定着していて、しっかり交流がなされていてとても感心しました。自分を深く見つめている子たちに日本の将来に希望がもてました。

参加者の声

割りばしペンという素材を使って日常によく見ているものを描いているだけに「じっくり見なくては。」「ていねいに描いていこう。」という気持ちが表れている線が描かれていると思いました。

改めて、ていねいに見るといろいろな発見があったのではないのでしょうか。

割りばしペン、自分も使ってみたいです。



## 開くとそこにある自分だけの宝物

矢野 宜利 (札幌市立北都小学校)

<教師の願い>

- 「宝物」に込められた自分の思いを大切に、それを表現することを楽しむと同時に、友達の思いや表現も大切に、互いに学び合える関係を築くことを期待している。
- 様々な飛び出す仕組みや表現方法を試しながら、自分の思いに合った表し方を発見することを期待している。



参加者の声

佐藤 和音 (札幌市立伏見小学校)

子ども一人一人が考えた宝物と、それを探す冒険などを、様々な表現方法を試しながら表す姿が素晴らしかったです。飛び出すカードの仕組みも、子どもが熱中できる表現方法であったことから、子どものシコウを生むための手立てであったと感じました。

## TOWER OF LIFE~人生の塔~

寺林 陽子 (札幌市立あいの里東中学校)

<教師の願い>

- 生徒が自身についての関心を高め、希望と好奇心をもち、これからの人生(未来)に思いを巡らすことを期待している。
- 自身の思考から形を生み出し、お互いが生み出した形を交流することで刺激を受け、認め合うことを期待している。
- 構成美の要素を自らの思考や他者との交流を通して体得することを期待している。



参加者の声

吉野 法行 (旭川市立第二中学校)

今回の授業は子どもたちの真剣なまなざしと、作品にひたむきに取り組んでいる姿から、それだけでも寺林先生の日常の指導がいかに素晴らしいかが伝わってきました。しかし、それだけではなく、子どもたち自身が、自分という存在を見つめ直し、将来などを見通しながら作品に反映させていたことが印象的でした。最終的にどんな作品が出てくるのか、とても楽しみになりました。

# 日高造形教育研究会

日高町立富川中学校 牧野 裕子

日高造形教育研究会は、現在会員7名です。「たとえ1人になっても続ける!」という会長の言葉に勇気づけられながら、活動しております。主な活動内容は、夏に「実技講習会」、秋には「公開研究授業」、そして、冬に「子どもの作品を語る会」を行っています。

日高管内の美術教員は、少人数である一方で、だからこそ関わりをもちやすいという良い部分があります。本研究会が、その関わりのあることを願っています。また、図工・美術の免許をおもちでない先生方にも参加しやすい研究会を目指しています。この夏行われた実技講習会は、日高教育研究所の実践講座とタイアップして行い、校種、教科を問わず多くの先生が、水彩絵の具を使って自分の技法を見つける体験をしました。

今後も、全道の地区サークルと繋がりながら、新鮮な意識をもって活動を続けていきたいと考えています。



## あ と が き

例年になく早めの「雪」。これからは北海道らしいいっばいの季節です。

さて、札幌大会では、数多くの授業実践を通して、多くを学ぶことができました。遠くから足を運んでいただいた皆様に厚く感謝申し上げます。この造形の絆が、次年度、釧路大会へとつなげていけることを願っております。

最後に、連盟報発行にあたり、原稿執筆などにご協力いただいた方に感謝申し上げます。

<北海道造形教育連盟 広報部> 櫻田 悟・小林 知広